

千葉サイエンススクールフェスティバル訪問記

去る8月3日に千葉工業大学において「第3回千葉サイエンススクールフェスティバル」が開催されました。千葉県内のSSH校を始めとする千葉サイエンススクールネットの連携校の生徒が中心となり行われている、大規模な科学イベントです。その様子を見学してきました。

1 千葉サイエンススクールネットとは

「千葉サイエンススクールネット(以下SSネット)」は県立船橋高校が平成23年度に文部科学省から指定された、コアSSHの事業です。県内のSSH指定校を始めとする多数の高等学校、小・中学校、大学等が連携して、千葉県全体の理数教育の向上をねらいとする研究開発を行っています。現在ではSSH指定校(県立船橋、市川、長生、県立柏、市立千葉、佐倉)6校を含む、22の高等学校、13校の小・中学校、千葉大学、東邦大学、千葉工業大学が連携校となって活動しています。

2 千葉サイエンススクールフェスティバルについて

「千葉サイエンススクールフェスティバル(以下SSフェスティバル)」はSSネットの事業の一つとして、小・中学生および関係者に高校の取り組みを広く知らせ、全県の資質と意欲のある児童・生徒を高校における探究活動に誘導することを目的として行われています。毎年8月第1土曜日に千葉工業大学を会場に開催され、今回で3回目になります。高校生による多数の実験工作展や科学研究紹介を始め、大学や企業等による出展、講演会などが行われます。

このSSフェスティバルは年を追うごとに盛り上がりを見せています。今年も近隣の小・中学生はもちろん、遠方のSSネット連携校

がバスを利用して来るなど来場者約800名、連携校の高校生スタッフ約280名と1000名を超える児童・生徒が会場に足を運びました。

3 実験工作展について

SSフェスティバルの中心はやはり「高校生による小・中学生向け実験工作展(一部大学や企業の出展もあります)」です。今年は高校生65件、大学・企業8件、計73件の出展がありました。内容は、やはり理科分野のブースが多いのですが、中には数学に関するものもありました。

どのブースにも多くの小・中学生が集まっていたのですが、特に「プリン型透明セッケンづくり」や「スライム作り」等、実験で製作したものを土産として持ち帰れるブースは、小・中学生に人気だったようです。



4 数学に関するもの

今回は市川高校が「錯視の世界」、県立船橋高校が「数学(図形・論理)のパズル」、県立柏

高校が「数学工作&パズル」というタイトルのブースを出展していました。

数学のブースというと理科と比べて地味な印象がありますが、関心を持ってくれる小・中学生、あわせて一緒に来た保護者の方も多かったようです。

市川高校は錯視の模型を用意し、その模型をカメラのレンズを通して見たときと直接見たときの違いを体感してもらうブースを出展していました。模型作成が難しく、特に角度の計算が大変だったそうです。県立船橋高校は3種類(数学, 図形, 論理)のパズルそれぞれに、初級, 中級, 上級を用意し、来場者に解いてもらう、ということをやっていました。出展のために来ている高校生が挑戦するケースが多かったようですが、中にはすべてのパズルを上級まで解いてしまう「スーパー小学生」もいて、大変驚いたそうです。県立柏高校は来場者に「ストウンの六角形」を製作してもらい、持ち帰ってもらっていました。



5 その他に

実験工作展以外には「高校生研究紹介」と「科学講演会」も行われました。

研究紹介は「ポスター発表」の形式でした。発表者は模造紙1枚分ほどのスペースに自分の研究内容を掲示し、発表を見に来た人たちに、個別にプレゼンテーションを行っていま

した。それぞれのポスターの前では、熱心に説明をする高校生たちの姿が見られました。

今回の研究紹介は全体で3件、数学分野での研究紹介はなし、という少しさびしい状況でした。今後はぜひ数学の研究紹介も出てきて欲しいものです。

講演会は4件でした。大学の先生や県立千葉中学校の先生の講演に加えて、今回は松戸市立小金中学校科学部の皆さんによる「ロボカップ世界大会報告」もありました。



6 終わりに

今回も大盛況に終わったSSフェスティバルですが、来年の実施については、まだどうなるかわかっておりません。というのは、SSネットの中心である県立船橋高校は今年度がSSH指定の最終年度となっているからです。

小・中学生に科学の面白さを伝える素晴らしいイベントが、せっかく軌道に乗ってきたところです。来年度以降も継続して行えれば、県内の理数教育がますます充実していくことと思います。もし、来年度もSSフェスティバルが実施されるならば、小・中学生のお子様を持つ先生方、興味のある先生方、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。

このような行事をきっかけに県内の数学教育もますます充実していくとよいと考えます。

【編集委員会】